

## 大須賀町

### 地形概況

小笠山丘陵の南部が旧海食崖をなして三角州性海岸平野に面する。土石流堆積物の埋積する東大谷川・西大谷川の出口には扇状地が形成され、天井川状流路となる。海岸と平行に砂丘・砂堆・堤間湿地がみられ、弁財天川河口右岸の砂山は大規模である。

### 地質概況

小笠山丘陵は、高位段丘礫層の小笠山礫層からなり、未固結であるため侵食が進行した。礫層の間にシルトを含んでいる。風化も進み、崩壊を伴って開析された。海岸は砂堆や砂丘が発達し、海食崖との間は湿性低地で最近の隆起運動で陸化した。

### 気象概況

年平均気温は推定 15.6°Cと県内でも気温の高い地域で、特に冬は暖かく真冬日がほとんどない。年平均降水量は推定 2,100mm と県平均よりやや少なく、4月から8月にかけて全降水量の約 50%が降る。冬は日照時間が県下でも長いほうで、西風が強い特徴がある。

### 災害事例 地震

- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震 M=7.9  
県中・西部で被害が大きかった。当地でも大渕で全壊34戸、半壊33戸、横須賀で半壊12戸、山崎で全壊5戸、半壊15戸の被害があった。また大渕では第1砂丘とその北側第2砂丘までの間に87個の噴水砂の跡が残されていた。横須賀でも井戸水が噴水のようにあふれ出たという。各地の震度は石津・笠原で6、山崎・横須賀・新井で5~6、沖之須・雨垂で5であった。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震 M=8.4  
全県下で被害があった。横須賀で二の丸の住居悉く潰れ、本丸・三の丸も破損した。河原町は全壊4戸、十六軒町は全壊1戸、半壊1戸、新屋町は全壊3戸、半壊2戸、東本町は全壊1戸、半壊1戸、西本町は全壊3戸、半壊2戸、東田町は全壊10戸、軍全町は全壊2戸、半壊3戸、東新町は全壊5戸、半壊3戸、西新町は全壊5戸、半壊2戸、石津は全壊6戸、半壊1戸の被害があった。震度は横須賀で6である。
- 1707年10月28日（宝永4年）宝永地震 M=8.4  
県下全域で被害があった。横須賀城内外で塀・石垣、所々崩れた。城下の川原町で全壊1戸、半壊6戸、十六軒町で全壊1戸、半壊3戸、新屋町で半壊1戸、東本町で全壊5戸、中本町で全壊3戸、半壊7戸、西本町で半壊4戸、東田町で全壊1戸、西田町で半壊3戸、大工町で全壊1戸、半壊6戸、軍全町で全壊1戸、東新町で全壊2戸、半壊3戸、西新町で全壊2戸、半壊8戸、石津町で全壊2戸、半壊4戸の被害を生じた。また弁財天川河口部の入江が地盤隆起によって干上がり、港としての機能を失った。当地の震度は6~7である。

### 災害事例 高潮

- 1699年9月8日（元禄12年）

大風潮害があった。横砂入江塩田堤江の橋という所で堤防が切れ潮水が侵入した。

- 1680年9月28日(延宝8年)

三河吉田から、駿河、原・吉原まで高潮の被害があった。横須賀では潮が陸上に上り、死者5~600人、潰家3~40戸といわれる。

#### 災害事例 竜巻

- 1902年3月1日(明治35年)

12時10分ころ磐田郡字湊村に竜巻が上陸し、北東に進み大野・横須賀を通過した。竜巻の幅は18m 延長5,280mであった。竜巻の通過した地方は家屋の損害がはなはだしく、全壊49戸、半壊14戸、死者5人、負傷者23人を出した。